

めぐみイエス・キリスト教会

2024年5月26日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第708号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌251「主イエスの御側に」 p. 388

【交読文】 No.42 詩篇第130篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条・主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「今も愛します主イエスを」

【聖書朗読】 ルカの福音書5章12節～16節(新約p. 118)

【礼拝説教】 《主イエスのお心》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書5章12節～16節)

5:12 さて、イエスがある町におられたとき、見よ、全身ツアラアトに冒された人がいた。その人はイエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります。」

5:13 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。すると、すぐにツアラアトが消えた。

5:14 イエスは彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々への証しのため、モーセが命じたように、あなたのきよめのささげ物をしなさい。」

5:15 しかし、イエスのうわさはますます広まり、大勢の群衆が話を聞くために、また病気を癒やしてもらうために集まって来た。

5:16 だが、イエスご自身は寂しいところに退いて祈っておられた。

●ポイント1.神様から呪われた裁きである「ツアラアト」とは？

※民数記12章1節～15節「妻チツポラの死後」(旧約p.259上段真中)

●ポイント2.«自分を祭司に見せなさい」とは？

※レビ記14章2節～9節「きよめられるときの教え」(旧約p.200下段)

14:2 「ツアラアトに冒された者がきよめられるときのおしえは、次のとおりである。彼が祭司のところに連れて来られたら、

14:3 祭司は宿営の外に出て行く。祭司が調べて、もしツアラアトに冒された者の、その患部が治っているなら、

14:4 祭司はそのきよめられる者のために、二羽の生きているきよい小鳥と、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソプを取り寄せるように命じる。

14:5 祭司は、その小鳥のうちの一羽を、新鮮な水を入れた土の器の上で殺すように命じる。

14:6 そして、生きている小鳥を、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソプとともに取り、それらをその生きている小鳥と一緒に、新鮮な水の上で殺された小鳥の血の中に浸す。

14:7 それを、ツアラアトからきよめられる者の上に七度かけ、彼をきよいと宣言し、さらにその生きている小鳥を野に放す。

14:8 きよめられる者は自分の衣服を洗い、その毛をみな剃り落とし、水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。その後で、宿営に入ることができる。しかし、七日間は自分の天幕の外にとどまる。

14:9 七日目になって、彼は髪の手、口ひげ、眉毛など自分のすべての毛を剃り落とす。すべての毛を剃り落とし、自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。

●ポイント3. 主イエスの十字架と復活の後とは？

※第 I ペテロ2章24節「使徒ペテロの体験から」(新約p.468上段)

2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

◎先週の礼拝メッセージ【聖霊のバプテスマ】

《復活されてから40日後、主イエスは、十一弟子たちと共に食事をし、エルサレムからオリーブ山まで、彼らと共に歩いて行かれました。「エルサレムを離れないで、私から聞いた父の約束を待ちなさい。あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

ここで、主イエスは、「父の約束」と言われましたが、これは、十字架に掛けられる聖金曜日の最後の晩餐の時に約束されたことです。『「私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その方がいつまでも、あなたがたと共にいるようにして下さいます。」』

そして、主イエスがオリーブ山から昇天された日の10日後に、その約束が、エルサレム市内のヨハネ・マルコの家において成就します。『五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現われ、一人ひとりの上にとどまった。すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。』と。

この時、弟子たちは「聖霊のバプテスマ」を授かり、そして他国の言葉で話し始めました。これが「異言」と言われているものです。ある聖霊派のプロテスタント教会は、異言を語ることが、聖霊のバプテスマを受けたしるしであると主張しています。しかし、聖霊のバプテスマを受けた人であっても、すぐに異言が与えられるとは限らないのです。

さて、「聖霊のバプテスマ」とは、聖霊に満たされることです。私たちが、罪を悔い改めて、主を救い主として信じ受け入れた時に、御霊は、私たちの内に住んで下さいます。しかし、それは第一段階であって、第二段階があるのです。それが「聖霊のバプテスマ」です。このバプテスマは上からやって来ます。聖霊のバプテスマを授かった者には、大胆さと力が与えられます。主イエス様の証人としての力が。》

お知らせ

※次回は6月2日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。